

# 輝いている。

熊本県茶振興大会が3月3日に熊本県  
経済連7階ホールで開催され、松岡博  
継さんが県茶品評会で三等を受賞しま  
した。

松岡さんは、卒業後すぐに農業に携  
わり、お茶の生産を始めました。学校を  
卒業する2年前から父が準備をして  
いてくれたからです。それからずっと  
お茶を生産し続けて今年で38年にな  
ります。  
お茶は霜に弱く、葉に霜が付着する  
と、直接葉を冷やしてしまい、中の水分

が凍って養分などが行き渡らず枯れる  
ことがあります。それを防ぐためには、  
上空の比較的温かい空気を「防霜ファ  
ン」を使って、下の空気と混ぜて温度  
を上げなければいけません。「いつも天  
気予報とにらめっこですよ」と笑顔で  
松岡さんは話します。38年と長く農業

と付き合い続けてきて、機器の導入などで  
楽になったところもあります。しかし  
苦労は容易に想像できません。  
消費の拡大を狙って、小学校でお茶  
の入れ方教室などを行うなど、努力も  
惜しみません。食育という考え方には、  
食べ物だけではなく飲み物も入るはず

なのです。  
長い年月は一人で歩いてきたわけで  
はありません。妻であるさつきさんへ  
の感謝の気持ちも「妻が頑張ってくれ  
ているのがありがたい。1+1が3に  
なっています」とこっそり話してくれ  
ました。



松岡 博継さん(陣内)

# まちの農業は

熊本県野菜振興大会が2月23日にホ  
テル熊本テルサで開催され、山隈浩一  
さん・百合さん夫妻が県野菜経営コン  
クールで秀賞を受賞しました。



山隈さん夫妻は、にんじんを主にだ  
いこん、はくさい、米を栽培していま  
す。浩一さんは18歳から24年間エンジ  
ニアとして勤め、42歳の時、両親の跡を  
継ぎ就農しました。「会社勤めの経験  
が、雇用方法や農機具の修理などに役  
に立っています。今は試行錯誤中です  
が、将来は法人化したい」と夢を語り、  
周りの先輩に追いつけ追い越せと努力

を惜しみません。「栽培方法などで悩ん  
だときも先輩が教えてくれる。自分の会  
社の経営を教える社長はいないでしょ  
う。でもそこが農業のいいところでもあ  
るんです。とても感謝していますね」と  
Uターンで就農した浩一さんならではの  
発見もあります。  
42歳で就農する時、家族は心配した  
が、今では休日などに手伝ってくれる  
良き理解者となりました。また転職し  
て8年でこのような賞を受賞できたの  
は、「親の基盤があったからこそであ  
り、ありがたく思っています」と大根  
の出荷を見ながら目を細めました。  
景気の悪化により野菜も低価格でし  
か売れない。しかし、このような厳しい  
状況でも法人化という確実な目標があ  
る浩一さんは、まだまだこれからも走  
り続けるはずですよ。



山隈 浩一さん(下町)